

確かにここに生きた先人たちの想い。
それが文化財です。

祈り、喜び、慈しみ…。

長い年月の中で生まれた想いが形となり、
今、私たちに伝えられています。

この袋井の宝ものの由来や価値を知ることが、
袋井の新しい芽をみつけることでもあります。

未来へ、さらに未来へつなげていくために、

袋井の宝ものに出会ってみませんか。

袋井の宝ものを 未来へ。

目次

医王山油山寺	4
法多山尊永寺	6
萬松山可睡齋	8
安養山西楽寺	10
富士浅間宮本殿	12
袋井宿の足跡	13
史跡・考古資料	14
無形民俗・有形民俗・建造物	15
彫刻・工芸品・天然記念物	16
絵画・書跡・古文書・歴史資料	17
指定文化財一覧・マップ	18

袋井市のあゆみ

袋井市は静岡県西部に位置し、太田川、原野谷川、遠州灘と自然環境に恵まれ、平坦な大地には田園と茶畑が広がる美しいまちです。また「遠州三山」と呼ばれる古刹をはじめ、貴重な歴史的建造物が多く伝わるまちでもあります。

人が袋井を居住の場とし生活を始めたのは、1万5千年ほど前の旧石器時代だといわれています。縄文中期の紀元前3千年頃、小笠山の中腹や原野谷川岸の台地に集落が形成されるようになりました。弥生中期の1世紀には、太田川流域を中心に水田耕作が始まりました。

5～6世紀になると、支配層の墳墓として前方後円墳や円墳、横穴が築造されました。

江戸時代、東海道五十三次の27番目の宿場町として「袋井宿」が開設され、小規模ながら宿場町として栄えました。

袋井は「中遠の穀倉」と呼ばれ、長い間豊かな農村として発展してきましたが、昭和44年に東名高速道路袋井インターチェンジが開設されると、農業中心から農業と工業が複合した産業構造へと転換し、農業と工業が共に進展するバランスのよい田園都市を形成しました。

平成17年4月1日、旧袋井市と旧磐田郡浅羽町が合併し、新袋井市が誕生しました。